

【学校教育目標】知・徳・体の調和がとれ、主体的・協働的に行動できる子どもの育成



学校だより

鈴鹿市立愛宕小学校

令和6年5月31日

No. 6



第1回学校運営協議会を行いました

5月28日、第1回学校運営協議会を行いました。今回の主な熟議内容は、今年度の学校経営の改革方針、地域との連携行事等です。校長より学校経営の改革方針を説明をさせていただき、学校運営協議会委員の皆様のご承認をいただきました。「学校経営の改革方針」や学校運営協議会の「実施報告書」は、ホームページに掲載していますのでご覧ください。



熟議の中で、下記のような話し合いがありました。特に、子どもたちの下校後の生活に関する話題が多く出されました。学校でも指導しますが、今一度、各家庭でもお子様と話し合ってくださいますようお願いいたします。

●あたごっちボランティアについて

去年の27人から今年32人に増えた。実行委員会をもった時の集合が速い。委員長・副委員長にも自分たちから立候補してやる気が感じられる。

●自転車の乗り方について

今年度4・5年生は交通安全教室で自転車の乗り方について学ぶ機会があるが、低学年の乗り方が気になる。低学年への指導は？

→他学年は、DVD等の視聴し、交通安全の指導をする。

●通学路について

通学路以外を通る児童がいる。悪気無く、なぜ通学路を守らないといけないか分からないようだ。

→通学路は安全な道として設定されている。また、通学路以外の道での事故は、スポーツ振興センターの対象外になる。家庭・学校が共に指導していく。

●大型店への子どもだけの出入り、お金やもののやりとりについて

子どもだけで大型店に行ってはいけないが、気になる様子がある。また、人気カードのやりとりからトラブルに発展しないかが心配。

→「子どもだけで、大型店や校区外には行かない」と「あたごの生活のきまり」にも明記している。家庭・学校が共に指導していく。

「学校運営協議会とは??」

地域・保護者・学校が力を合わせて学校の運営に取り組み、「地域とともにある学校」をめざす仕組みです。地域・保護者・校長がその委員となります。学校運営に必要な支援に関する協議などを行います。例年、年間6回会議をもちます。

学校運営協議会を設置した学校を「コミュニティ・スクール」と言いますが、鈴鹿市では、平成23年度から全ての公立小中学校をコミュニティ・スクールに指定しました。

◆交通安全教室「自転車の正しい乗り方」(4・5年生)

5月30日、鈴鹿市交通防犯課及び鈴鹿警察署交通課の方のご指導のもと、4・5年生が行いました。例年、5年生のみ行っていましたが、次年度から4年生へ移行するため、今年度は2学年で行いました。

PTA 安全安心部の方々には、指導の補助をしていただき、ありがとうございました。



自転車点検のポイント

親子でチェック
「ブタハシャベル」で覚えよう！

ブ

ブレーキの前輪、後輪、両方を握って自転車を前後に動かしてブレーキがしっかり効くかどうか、きちんと止まるか確かめる。



タ

タイヤをさわって十分な空気が入っているか。ゴムがすり減っていないか、釘や石など刺さっていないか、締めつけのゆるみがないか確かめる。



ハ

ハンドルがきちんと固定されているか。ハンドルが曲がっていないか、ガタガタしていないか、ハンドルを握って緩みがないか確かめる。



シャ

チェーンをぐるぐると確かめよう。サドルの高さはあっているか。チェーンが緩んでいないか。スタンドはがたつきがなく円滑に動くか。ライトは点灯するか。反射材はついているか。



ベル

ベルは鳴るか。壊れていないか確かめよう。





自転車に乗るときには
ヘルメットをかぶりましょう！

警視庁 交通総務課



指導員の方から、ヘルメットのかぶり方、自転車に乗ると時の体勢（右足はペダル・左足は地面）、ブレーキのかけ方、発車時の安全確認の仕方、停止線での止まり方、交差点での安全確認の仕方など、丁寧にお話をさせていただきました。

その後、運動場に設けられた練習コースを使い、指導いただいたことに気を付けて、子どもたちが自転車走行をしました。安全確認では「右よし、左よし、右よし、後ろよし」と声を出して、真剣に取り組むことができました。

また、自転車点検もしていただきました。上記にあるように「ブタハ シャベル」という合言葉で点検ポイントを覚えておくとういそうです。

今日、学んだことを明日からの生活の中で実践していきましょう。とにかく交差点では、「止まる！見る！」を必ず守ろう。

◆「図書館の工夫」を教えてもらいました(4年生)

5月29日(水)、4年生が図書巡回指導員(毎週1回来校)さんに、「日本十進分類表」による本の分類方法、本の「背ラベル」の数字の意味について教えてもらいました。途中、「防災の本はどの分類に入るのでしょうか？」といったクイズもあり、子どもたちは図書室の中の本を見渡しながらかえをを考えていました。この機会に、各分類の本に目を向け、様々なジャンルの本に関心をもってほしいですね。また、本は、分類ごとに書架に並べられていますので、読み終わった本は、元の場所にきちんと返却をしましょう。

